

令和元年度の学校評価
ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	1 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図る。 2 学校いじめ防止基本方針に基づき、すべてのいじめの根絶を図るとともに、情報モラルを向上させる。 3 適切な情報提供を行い、確かな進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。 4 外部との連携を充実させ、学校全体でのE S D活動を推進する。 5 「教員の多忙化解消プラン」に基づき、業務改善に向けた学校マネジメントの推進を図る。 6 保護者・地域社会に対して、積極的に本校の取組を発信する。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
生徒指導 (生徒指導課)	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルの向上を図り、SNS等によるトラブルを防止する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに「防犯教室」を実施し、身近なテーマとして考えさせ、年度末アンケートで意識の変化等を確認する。 授業、HR指導、風紀委員活動、外部講師を始めとした各種講話等で具体的な事例を示しながら意識の高揚を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSの危険性について、継続的に指導した結果、SNSに関する指導案件は減少した。(昨年度10件、今年度2件) 生徒の意識は高まっていると思われるが、今後さらにきめ細やかな指導を継続する必要があると思われる。
(2年学年会)	<ul style="list-style-type: none"> 日常の「気づき」を大切にしながら、豊かな感性を育む。リーダーの育成および学年の団結を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学やHRなどを活用して、相手の思いを読み取る力、自分の考えを伝える力を高める。 学校行事では役割分担をし、各自が責任感を持てるような取り組みを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な場面で、自分の意見をまとめたり、聞く機会を設けることができた。 学校行事ではリーダーが積極的に動き、スムーズな運営に貢献することができた。 一部の生徒に任せきりになる場面があり、全体の底上げが課題である。
(1年学年会)	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を確立し、検定合格に向けて意欲的に取り組ませる。 生徒指導課と連携し、遅刻者への指導・身だしなみ指導を徹底する。 部活動への積極的参加と学業との両立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立という点では、概ね目標を達成できた。部活動への参加、授業規律、検定取得への意欲も良好である。 学年リーダーを中心に、現状を改善するために自ら行動できるように働きかけたい。
学習指導 (教務課)	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・協働的な学び」を意識した授業展開の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 教科主任会と連携し、アクティブ・ラーニングの展開事例を共有し、効果的な実践方法を検討する。 公開授業週間においては、教科や担当科目の枠を越えて、期間中1回は授業を参観し合い、多様な指導方法に触れる機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 現行の授業をベースに、講義型授業と参加型授業をバランスよく取り入れ、さらに学習活動がアクティブ化するよう、授業展開を意識する。 授業を参観し合うことで、自身の指導技術の向上と研鑽に努めることに主眼を置く。また、教科の特異性を知る機会としても活用する。
(経理科)	<ul style="list-style-type: none"> 深い学びを意識した経理教育の充実と指導方法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> 会計処理について、意味を深く考えさせ、会計情報を的確に読み取り、経営の視点から判断・分析をさせる。 外部講師の活用により、会計分野に興味を持ち、意欲的に上級資格に取り組むことができるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の活用やグループ学習により、自ら考えて取り組む姿勢が生まれた。 発展学習や高大連携により、少しずつ上級の資格取得に関心を持つ生徒が増え、次年度につながる授業展開を実施することができた。
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題

学 習 指 導 (事務科)	<ul style="list-style-type: none"> 発展的なマナー教育に対する効果的な指導方法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> 講師招聘や連携教育を実施し、実務やマナーを習得させ、実践できる機会を数多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い資格取得に取り組み、生徒個々の能力に対応した授業展開を実施することができた。また、受付や接待など接遇・マナーの実践の場を設け、外部講師による連携教育も実施をすることができた。新たな学校設定科目を視野に入れた授業展開を意識することができた。
(情報処理科)	<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムの具体的な検討と教材開発に取り組む。 情報リテラシー教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学科会を活用し、新カリキュラムの骨子案を作成する。 前年度STEM教育等で作成した教材を使用し、知識の定着をはかるとともに、情報リテラシー能力を育成する授業展開に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学科会において、新カリキュラムを完成させることができた。 STEM教育で作成した教材を担当教員で共有し、活用することができた。 令和2年度入学生より、新カリキュラムを先行実施するため、次年度より小学科会を通して準備を進める。
(国際ビジネス科)	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に沿った学習内容の検討 企業と連携をとりより実践的な授業展開を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目の内容を考慮し、小学科会で検討を進める。 企業・外部団体・大学との連携を深め、実践的な教育活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校生徒の現状を把握し、新学習指導要領へ向けたカリキュラムを組み立てることができた。 多くの企業と連携をとることにより、生徒は自らの成長を実感することができた。
(図書課)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の利用促進と環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のみならず職員に対しても図書館の利用を積極的に働きかけるとともに、魅力ある図書館づくりを心がける。 データベース化が完了したことによって不要になった備品等を処分整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動に努めたが、図書の貸し出し数が減少してしまったので、今後更なるPRに努めたい。 不要になった大きな備品等を処分することができた。
進 路 指 導 (進路指導課)	<ul style="list-style-type: none"> 社会の変化に対応して、適切な情報を提供することで、確かな進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職試験や大学入試に合格することが目標ではなく、その後の人生における資質、能力をはぐくむための指導を行う。 「夢のマッチングフェア」、「卒業生による企業説明会」などを活用し、最新の企業・学校の情報を提供し、確かな進路実現に向けたキャリア教育を行う。 「新学習指導要領」改訂の趣旨を熟知し、本校における今後のキャリア教育の充実に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の収集、資料の活用を促し、何をなすべきかを自覚できるようにする。
(3年学年会)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力・適性の自己理解と個性の伸張を図り、多様な進路希望の実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が自らの進路を主体的に考え、より良い選択ができるように、適切な情報提供及び助言や指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 大手製造業の新卒採用が縮小される中、本校への影響が心配され、また厳しい企業の採用姿勢がある中で、昨年度と同様の高い1次内定率を得ることができた。2次においても進路指導課と連絡を密にし、全員が内定するに至った。進学については取組姿勢が明暗を分けたが、適切な情報提供により概ね良好な結果を得ることができた。
生 徒 会 活 動 (生徒会課)	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の課題を改善し、充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 100周年記念事業を充実させる。 愛商祭、球技大会の運営上の課題を模索し、改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校開放を充実させることができた。 諸行事の課題を改善することができた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
教育相談 (保健課)	・教育相談体制の充実	・スクールカウンセラー来校日を活用する。 ・関係の職員と情報の共有を図りながら、適切な対応に努める。	・問題を抱える生徒について、スクールカウンセラーに繋げることができた。また、関係の職員間で情報の共有を図ることができた。しかし、早期に解決するケースが少なく、問題が長期化することが多かった。来年度以降もスクールカウンセラー来校日を活用し、教育相談体制の充実を図っていきたい。
P T A 行事 (総務課)	・P T A 行事に関する理解や協力を保護者や教職員からさらに得られるようにする。	・P T A 行事の内容や意義を教職員に周知し、理解や協力を得る。 ・学年会と連携を図り、保護者との連携を密にする。	・さずなネットの登録者の増加に努め、保護者へ行事のP Rをすることができた。 ・P T A 行事の意義や内容等を周知し、教職員の理解や協力を得ることができた。
情報管理 (教育情報課)	・情報セキュリティに関する意識の向上	・情報セキュリティに関する意識の向上を目指し、教員に対する啓発活動を実施する。	・複数回にわたる情報セキュリティに関する調査やU S Bメモリの整理などを通じて、セキュリティに関する意識を高めることができた。今後もセキュリティについての意識向上に向けた取り組みを行っていきたい。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に係る取り組みにより、外部講師の活用やグループ学習を積極的に展開していく中で、主体的で対話的な深い学びの場が実践されるようになった。 ・S N Sについて、1年を通してその危険性を注意喚起し、継続的な働きかけを行った。生徒の意識も徐々に変化し、今年度はS N Sに関する指導件数が減少した。 ・創立百周年に係る式典、学校開放等については、生徒の活躍の場を可能な限り設定することで充実したものとなった。 		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒がいきいきと楽しく活動できる学校づくり ・教職員にとってやりがいのある学校づくり ・保護者、地域にとって開かれた学校づくり
自己評価結果について (中間評価より)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在商業高校からの就職・進学はともに良好であり、努力を継続してその成果をアピールしていくことが生徒募集につながっていくと考えている。大学における生徒募集も同様である。 ・心のケアが必要な生徒が増加傾向があるが、現在の学校の雰囲気や大切にして、明るい声の絶えない学校づくりを心がけていただきたい。 ・先生方の熱心な指導により、生徒は充実した学校生活を過ごせている。中学校説明会を頻繁に開催していくことで情報発信を行い、商業高校の良さをP Rしていただきたい。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムの団体と連携した取り組みを積極的に展開することで、より主体的で協働的な深い学びの実現を図りたい。 ・中学生向けの説明会を見直し、早期に働きかけを行うことで、商業高校の魅力を発信していきたい。
その他(学校関係者評価委員 から出された主な意見、 要望)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスによる感染拡大防止のため、年度末の評議員会の開催を中止した。
学校関係者評価委員会の構成 及び評価時期	<p>構成 保護者、地域連携・中高大連携・地域企業の関係者</p> <p>評価時期：10月、2月</p>